平成30年度

# 事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成

06 JUNE

2018 年 06 月 01 日

## パレスチナ･ガザの状況

国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA)の清田明宏保健局長が来日なさいます。清田局長によるとガザの状況は 2014 年夏の戦争で壊滅的な被害を受けた時から 4 年がすでに経っていますが、悪化の一途を辿っています。

特に、3 月 30 日から始まったガザのデモによる死傷者は 13,000 名を超えています。負傷者が多い上、重症患者も多く、ガザ地区で対応できる医療のキャパシティを完全に超えてしまい、ガザの社会、医療サービスが崩壊寸前になっています。医師たちは命を救うために懸命な治療を続けていますが、「点滴が枯渇、点滴用の抗生剤も底をつき、骨折用の外部固定器も在庫がなくなる」という状況がおきています。

「本来ならば、治療ができれば救える多くの命を、目の前でなくしてしまった。それが本当に悔しい」と清田局長は訴えています。多くの負傷者が今後障がいを一生抱えて生きて行かなくてはならない可能性があるなかで、術後ケアの出来る体制の強化、リハビリテーションの充実が課題となっています。

## ジャンボ　ケニア！

新スタッフの村上です。

これからケニアに向けて出発します！

日本リザルツ東京事務所で 3 日間の赴任前研修を終えていよいよ現場に移動するのですが、実はアフリカに「行く」というより「帰る」と言った方が良いかもしれません。

縁あってミレニアムゴールが設定された 2000 年から国際協力の仕事に関わってきたのですが、アフリカには通算 7 年滞在しています。

ケニアには、1 週間余りでしたが 2009 年に国連の人道的交渉技術研修に参加するため滞在した事があります。その時に覚えたジャンボ･ブワナというスワヒリ語の歌が、長い海外生活の支えとなりました。ジャンボ･ブワナとは、「こんにちは、ミスター！」といった感じでハバリ「元気？」ンズリ　サーナ「元気ですよ」と続きます。

スラムでの結核予防事業というちょっと重たい活動ですが、忘れかけていたスワヒリ語を思い出して　ジャンボ　ケニア！とつぶやきながら　新しい出会いにワクワクしながら出発します。

では、8 年目のアフリカ暮らしホンゲラ！（おめでとう）

エンデレア　ポレポレ（ゆっくり行こう）

2018 年 06 月 03 日

## 新たな仲間が増えました

日本リザルツケニア事務所に新たな仲間が増えました。
5 月中旬から加入したのは、山中さん。大学院で紛争解決を勉強してきたキャリアの持ち主です。
5 月下旬の白須のケニア渡航時には通訳として大活躍。今では、ケニア保健省からも信頼を獲得しているケニア事務所のエースです。

アブタさんとも
すっかり仲良しです。

筆者は1月末にケニアに渡航して以来、掲載された新聞記事を壁に掲げています。今では、壁一面が新聞記事で埋め尽くされています。アブタさんのお陰です。
ケニア事務所スタッフは、「結核で亡くなる患者をゼロにする」という目標のもと、未だかつてないほど、結束を固めています。
そして、昨日、アフリカで開発プロジェクトに長く携わった経験を持つ村上さんがケニアに到着されました。

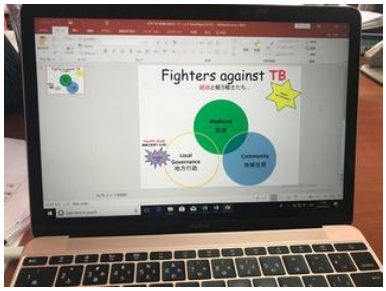
ケニアスタッフ皆さんのお母さんである彼女は、早速、オフィスに素敵なバラの花の差し入れをくれました。
ハマユリのようにはいきませんが、長坂が活けてみました。

新たな 2 人の加入でますますケニア事務所の活動が盛り上がっていきそうです。

2018 年 06 月 04 日

## 頭の体操～リザルツ編

日本リザルツに入職して初めてのアドボカシーペーパー作り。
まだ完成していませんが、ペーパー作りの過程で課題を色々な角度から見直すことができてとても新鮮な体験をさせていただいております。
これは、まさに頭の体操～リザルツ編といってもよいかと思います。
画面は結核予防 STOP TB の実現のため地域住民、地方行政、医療がそれぞれ力を発揮して結核と戦っているイメージです。
ケニアでは、残念ながら行政関係者の汚職の問題がまさにヘルスリスク



となっていますが、そんな重たい問題をリザルツ流の頭の体操でアドボカシーペーパーにしようと苦戦中です！
ようこそ！Wageni wakaribushia！と体操で少し柔らかくなってきた頭に歓迎の声がこだましています。
明日はいよいよカンゲミ訪問です。

## MADAM YUKO MAKES OUR NEWSPAPER COMPETITION MUCH TOUGHER, HAHA!

For the last couple of months, the competition between Abuta and Yuko on who will publish the highest number of newspaper articles in the Kenyan and Japanese Media respectively has been heightening.
I can tell you that Yuko is so determined to be the first one, but Abuta will, by publishing even more articles in the newspaper, have the highest number.
These articles have been very important in publicizing the work of RESULTS Japan, and the breakthroughs they have made in the past months of the second year project. Indeed, the coming of Yuko made the push much fiery, since, almost weekly, she can publish an article either in a leading Japanese newspaper or Magazine.
However, as compared to Yuko's small newspaper stories, Abuta san writes longer newspaper articles, which are read widely by thousands of Kenyans. Twice, his article on corruption has been the top Twitter trend in Kenya.
In the coming weeks, we hope to make the work of RESULTS much more famous and publish even more articles to that end.
Now, more than ever, the competition becomes tougher.

**2018 年 06 月 05 日**

## 【明日ご注目！】 国際連帯税議連総会に河野太郎外務大臣、宮沢洋一自民税調会長も出席されます

国際連帯税創設を求める議員連盟（会長・衛藤征士郎衆議院議員）の2018 年度第 1 回総会が下記のとおり開催されます。この総会には河野太郎外務大臣や宮沢洋一自民党税調会長も出席されます。

ご承知のように、先のG20ブエノスアイレス外相会合において、河野大臣は「SDGs 達成のためには金融取引税を含む国際連帯税の活用も一案である」と発言されました。今総会では、どのような思いで提案されたのか直接お話を伺える機会となります。
考えてみますと、2008 年に議員連盟が創設されてから、現職の外務大臣が議連総会に参加されるのは、これが初めてのことです。

一方、毎年度の税制改正を決定する実力者の宮沢自民党税調会長からも国際連帯税に対する考えを聞くことになりました。同会長がぜひ国際連帯税に前向きとなり、調査会をリードしていただくことを期待したいと思います。

●今回の議員連盟総会は傍聴できませんが、ご注目を！

残念ながら、会場が議員専用の会議室ということもあり、市民側の一般傍聴はできません。後日総会のもようを報告しますので、ご注目くださるようお願いいたします。

記

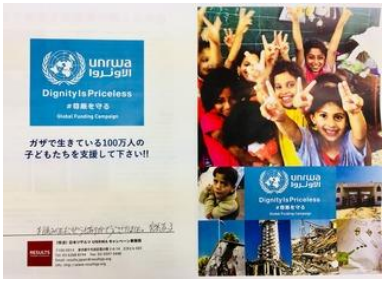
・日　時：2018 年 6 月 6 日（水）　12：15～
・場　所：参議院議員会館　特別会議室
・議　題：1. 河野太郎　外務大臣よりご挨拶
　　2. 宮沢洋一　自民党税調会長よりご挨拶
　　3. 2018 年度役員体制、2018 年活動方針等について、ほか

★写真は、2010 年 11 月 8 日の総会のもようです。当時は日本政府が国際連帯税に関する（国際）リーディング・グループの議長国になるなど盛り上がりを見せていました。再び盛り上げていきたいですね。

**2018 年 06 月 06 日**

## 国連パレスチナ難民救済事業機関―UNRWA

第 3 弾 UNRWA ニュースレターが発行されました。今回は UNRWA 清田明宏保健局長の来日にともない、パレスチナ・ガザの惨状をご報告しました。
こちらのレターは、6 月 5 日に国会議員の先生方に配布いたしました。
配布にあたっては、白須代表を先頭としてボランティアの方々を含める日本リザルツの東京チームが一丸となり、紙を折ったり、手書きのメッセージを書いたりしました。チームの素晴らしい団結力を感じました!!
ありがとうございます！




## 通訳の体験を通して

少し前に遡りますが、5 月 28 日ケニアで日本リザルツ代表・白須とケニア保健省の職員達との間で会合が行われ、そこで自分は白須代表の通訳係をさせて頂きました。

個人的に印象的だったことは、会話の内容を母国語と第二言語を用いて通訳する中で、どのように自分の偏見（バイアス）を通訳作業に持ち込まないか、そしてどのように話し手の多様な意思の疎通を自分の言葉を通して伝えるかということでした。これらの点は、会話の内容と同じくらい重要だと感じました。

この会合は、白須代表とケニア保健省の職員達の長時間に及ぶ話し合いの結果、お互いに有益であろう合意点が生まれました。自分は、この通訳体験を通して、大切な会合において通訳を行う方々の重要性や責任について再認識しました。

**2018 年 06 月 07 日**

## 国際連帯税の創設を求める議員連盟総会

6 月 6 日に、初めて議員連盟総会に出席しました。議事録作成の役目を仰せつかっており、念のためボイスレコーダーと自分のスマートフォンの 2 つで録音をしました。いざ事務所に戻って聞いてみたところ、不思議なことにボイスレコーダーで聞き取りにくい音声がスマートフォンの方で聞き取りやすかったり、その逆でスマートフォンで聞き取りづらい音声が、ボイスレコーダーの方で聞き取りやすかったりして、2 つの聞き比べのようなことをしながら作成をしました。その結果、話の内容をより良く理解できた気がします。

## グローバルレベルの結核対策についての意見交換会の開催

昨日、リザルツで、グローバルレベルの結核対策に関する専門家の方々による意見交換会が行われました。ご出席いただいたのは、結核診断機器や医薬品・医療機器の企業の皆様とグローバルヘルス等について日頃からご指導をいただいている東京大学の渋谷先生です。ご多忙の中、また、あいにくの雨の中でしたが、お集まりいただきまして本当にありがとうございました。結核を含めたグローバル感染症対策がより一層発展することを祈念しています。

## 国際連帯税議連総会報告:モメンタムが大事、今がその時！

昨日(6 月 6 日)の昼時間、「国際連帯税創設を求める議員連盟」の今年度第 1 回総会が開催されました。今回は先の G20 外相会合で国際連帯税を提起した河野太郎外務大臣、また毎年度の税制改正の権限を持つ宮沢洋一自民党税制調査会会長も出席するということで大いに注目された総会となりました。以下、メッセージや発言の要旨を送ります。

●河野外務大臣のメッセージ「 SDGs 推進の機運と行動を盛り上げつつ」
（急きょ日米外相会合が入り、堀井巌外務大臣政務官が河野大臣のメッセージを代読された）

現在、持続可能な開発目標（SDGs）の実現向け、各国が取組みを強化している中、日本政府も総理が本部長、官房長官と私が副本部長を務める SDGs 推進本部が司令塔となり、推進している。一方で、国際社会は SDGs 実現に必要な資金の不足に直面しており、先進国の援助疲れも指摘されているが、世界の開発需要に対応するためには、伝統的な ODA だけでは資金量は十分ではない。従って、新たな資金調達方法として国際連帯税は有効な手段となるものであり、国際社会が知恵を寄せ合って取り組まなければならないと考え、去る 5 月 21 日の G20 ブエノスアイレス外相会合では、こうした考えに基づき各国の外相に提起をした。

外務省としてもまずは本年 8 月の平成 31 年度税制改正要望に向け、課税方式、使途などについて幅広く検討を進める。来年の G20、TICAD VII、国連ハイレベル政治フォーラムなどの国際会議の機会をとらえて、SDGs 推進の機運と行動を盛り上げながら、国際連帯税導入に向けた、一層の環境整備を図っていきたい。

●宮沢自民党税調会長の話「厳しいが国際的な機運を高めて」

…新しい政策ニーズといったものが出てきている。またそれに合わせてその関係者達が汗をかいて増税のスキームといったものを作っていく。国際連帯税について言えば、私自身も、SDGs というのは大変大事な政策目的だが、しかし予算が足りないということも事実なのだと思う。では、どういう財源があるかだ。これまで議論されてきた国際的な航空運賃に上乗せするという公式があったが、国際観光旅客税が創設されており合意を得るのは時間がかかりそうだ。

もう一つがいわゆる国際金融の取引に薄く負荷をかける税制、いわゆるトービン・タックスが昔から言われている。個人的にはトービン・タックスというのは必要だろうと思う。今の国際金融を見ていると過剰にお金が動き過ぎそれが金融不安を高めているという状況があるので、お金の流れに負荷をかけるのは必要だろう。ただ、問題はこれが一国だけではできないということだ。

ともあれ、河野大臣も（国際連帯税に）大変熱心だし、ここには国際的な場で活躍される先生方もたくさんいらっしゃるわけだから、国際的な機運を高めて行くということをぜひやっていただきたいというのが、税制をあずかるものとしての願いだ。

●モメンタムを！7.26「国際連帯税に関するシンポジウム」開催へ

この後、石橋通宏事務局長（参議院議員）から、2018 年度役員体制と活動方針が提起されました（議連会員は 68 人となる）。

方針として石橋事務局長は、「外務大臣のイニシアチブも重要だが、国際連帯税が税の負担者と受益者が異なる税制度となることから世論の一層の盛り上がりが必要だ。7 月 26 日に『国際連帯税に関するシンポジウム』を開催し、国際機関やNGO・市民社会、企業、有識者、在京欧州大使といった各界の代表者にお集まりいただき、最後に『国際連帯税を実現するための決議文（宣言文）』を採択し、それを河野外務大臣にその場で手渡し、来年度の税制改正要望につなげていく」、と提起し承認されました。

続いて、意見交換の場で、猪口邦子参議院議員から次のような発言がありました。「やはり新たな財源を実現するにはモメンタムというのがすごく影響するが、今こそ本当に重要なタイミングなのだ。というのは、来年 G20 ほか国際会議が目白押しだから、このモメンタムを大事にして国際連帯税を考えていくことが必要だ」。

最後に、来年 6 月大阪でのサミットを見据えつつ、議長国として日本が SDGs の実現に向けてリーダーシップを発揮する絶好の機会となることを踏まえ、外務大臣と議連との意見交換の機会を別途持っていくこと、このことを全体で確認し、総会は終了しました。

**2018 年 06 月 09 日**

## 職員募集

昨年末からリザルツの職員募集をしてきて感じたのは比較的高齢者が多くなっている事です。今社会が高齢化に向かっているのと、一般企業では定年を過ぎた人には新たに就職口を探すのが難しくなっている事を如実に反映していると思います。今年になって入職した職員の中にも60歳代の人がいました。又最近では海外からの応募も来る様になりました。様々な経歴の職員が集まってシナジー効果が生まれオフィスが活性化する事を期待したいと思います。

## どんよりとした曇り空の下で～　ケニア気温 13 度

日本の梅雨はジメジメと蒸し暑いことと思いますが、ここケニアでは肌寒い冬のような雨の日が続いています。

街から少し離れた丘の上にあるカンゲミ診療所は、気温が2、3度低いように感じられます。
そんな中でリザルツが建設を進めている結核検査所では 6 月末で完成すべくＴシャツ一枚の屈強な若者たちが寒さをものともせず作業を進めています。

TB クリニックでは、日本リザルツの現地スタッフが、結核患者へ対面で聞き取り調査をしていました。
写真は聞き取りをするヒルダさんと傍で様子を見守るシコ（ポーリーン）さんです（リザルツの活動に理解を示しているこの患者さんは、快く写真撮影に応じてくれました）。

まだまだ寒い日が続きますが、ケニア事業はコミュニティのボランティアたちの熱い志を結集して、どんよりとした曇り空を明るい青空に塗りかえよう！と着任早々、大きな夢を描いています。
とはいえ、26 度の東京から 13 度のナイロビ。体調管理に努めます。

**2018 年 06 月 10 日**

## ケニアの皆さんの防寒対策

ケニアは雨季が終わり、冬の季節に入りました。
といっても、日本の 4 月くらいの陽気です（15 度前後）。
ケニアの皆さんの防寒グッズの1つが、マサイ族の伝統衣装であるマサイ布です。
色は基本的に赤で、チェックやストライプなど様々なマサイ布を身にまとっているケニアの皆さんの姿が目に付きます。
私も、マサイ族出身のウエストランズ保健省のリリアンさんからいただいたマサイ布を活用しています。
通常、マサイ布は赤色なのですが、「ユウコはピンクが好き」だと、ピンク色のマサイ布を見つけてくださいました。
最初はただの布とかと思っていましたが、身に付けてみると意外と温か

いことが判明しました。聞けば、しっかり、暖を取れるように、アクリルやウールなどの素材でできているそうです。
国立公園などに定住されているマサイ族の方は、今でもこれ 1 枚で生活をされています。1 枚でも厳しい冬を乗り切るために、マサイの先人の知恵が隠されているのですね。
この日はアブタさんもマサイ布を身にまとっていたので記念写真を撮りました。

寒い日が続きますが、マサイ布を身にまとい、数々の任務に今週も取り組みます。

**2018 年 06 月 11 日**

## スナノミ症靴寄付

本日、JICA の山田上級審議役から靴のご寄付がありました。
どうもありがとうございました。

**2018 年 06 月 12 日**

## GGG+フォーラムケニア版の開催

日本リザルツは 7 月 31 日（火）GGG+フォーラムのケニア版を開催します。
ケニア保健省、日本の関係各省庁も巻き込んだ初の試みになります。

現在、日本リザルツのパートナーである KANCO のピーターさんとともに、会議の開催に向けて戦略を練っています。また、招待状の送付も始まり、ケニアでの会合にも関わらず、多くの関係機関の皆様からご出席に向けた前向きなお返事が返ってきております。

GGG フォーラム 2018 in Kenya：アフリカの UHC と SDGs の実現に向けて（変更あり）
日　時：2018 年 7 月 31 日（火），9:00-15:00（昼食 12:00-13:00）
第一部: 9:00-10:30/GGG，結核，ポリオ，ワクチン

第二部: 10:30-12:00/ 栄養, 難民

第三部: 13:00-15:00/公衆衛生, トイレ, 女性と子ども

場所:ジャカランダホテル(大会議室)、ナイロビ、ケニア

主催: 日本リザルツ、平和と健康の会、ケニア政府

共催: ACTION, KANCO, WACI Health, ストップ 結核パートナーシップ ケニア

有意義な会議になるよう尽力したいと思います。

2018 年 06 月 13 日

## 「世界栄養報告」和訳

「世界栄養報告 2017(Global Nutrition Report 2017)」本文の和訳をしました。栄養に関する知識がほとんど無い状態からのスタートでしたので、はじめは手こずりましたが、調べながら訳すうちに徐々に速度を上げられたと思います。また、栄養に関する詳しい内容が書かれた報告書だったので、単に用語を辞書で調べるだけでは足らず、背景や経緯を調べなくてはならない場合もありました。固有名詞の場合などは特に、他の機関等が訳している例がある場合はそれに倣うなどしました。大変でしたが、とても、いい勉強になりました。

2018 年 06 月 14 日

## ポリオアドボカシー(その1)

今週、WHO、UNICEF、GPEI、Gavi などの幹部が来日され、ポリオ議連会合、議員の先生方との面会等精力的に活動されておられます。また、これに先立って、11日に国連大学において UNICEF が主催して、国連関係者、NGO を対象とするポリオアドボカシー会議が開催されています。その際、世界のポリオの現状等について情報提供がありましたので、下記に概要を報告いたします。

過去30年で多くの国々でポリオが根絶され、世界的にはポリオの症例は99%減らすことに成功しています。この結果、野生株の常在国は、アフガニスタン、ナイジェリア及びパキスタンの3カ国になり、2017年には、野生株によるポリオ発症件数は史上最少の22件(アフガニスタン14件、パキスタン8件)に留まりました。こ

のように全体としては大きく改善されていますが、2018年には、アフガニスタンとパキスタンで新たな症例が見つかっています。発症が見られた地域は、アクセスが困難で脆弱なコミュニティが多くなっており、引き続き注意が必要です。また、地中海東部等の難民地域や常在国周辺のポリオのない地域へ、野生株ウイルスが国境をまたいで伝播する危険性もあります。引き続き厳重な対応が必要です。
一方、ポリオ経口生ワクチン（OPV）は安価で接種が容易という利点があり、野生株根絶のため不可欠ですが、「伝播型ワクチン由来ポリオウイルス」が発生することがごく稀ながらあって、ポリオ流行の原因となることがあります。特に水衛生環境の悪い地域、人口密集地域、予防接種率の低い地域で発生しやすいことから注意が必要です。
対応としては、5歳以下の子どもを対象とした質の高い OPV 投与のキャンペーンの素早い実施が鍵です。現在、ソマリア、コンゴ民主共和国、ケニア、ナイジェリア、シリアで症例が出ていますが、遺伝子変異を起こさないポリオ不活性化ワクチン（IPV）の供給の安定化も急務で、日本企業の役割も期待されています。

## PARTNERS MEETING BRINGS TO LIGHT PEOPLE WORKING IN KANGEMI AREA

Yesterday, in a meeting lasting several hours, NGO's and other partners working in Kangemi had extensive discussions on what they are doing in the area.

The activities each one of them does complement each other and help in making better the lives of the people who live in the low-income areas.

23 organizations which handle among others; security, children, nutrition, education, girl child, crime reduction, and community peacemaking attended the meeting at the PCEA hall.

We were tasked to explain the work of RESULTS Japan, and what we would like to achieve as regards having a TB free Kangemi. It was clear that our work was impactful, and they had felt the change in the community.
Meanwhile, in the media competition, Yuko is still leading, but with a very small margin. I will be ahead soon. This is why, as you can see in this photo, she is smiling.

We appreciate the efforts of the Kangemi staff in terms of patient voice collection, and the times they have dedicated to ensuring that we reach this target of new patients.

As time goes by, we believe we shall be fully on track in what we have dedicated ourselves to doing.

## 新聞記事　5 月 5 日 Beautiful Mother Park 2018 @ YOKOHAMA

5 月 5 日に開催された「Beautiful Mother Park 2018 @ YOKOHAMA」に関連する記事が 5 月 19 日の公明新聞に掲載されました。
この記事を浅野理事長にお知らせしたところ、下記の言葉をいただきましたので、皆さまにお知らせしたいと思います。

感染症予防に役立てて
アフリカ支援で宮神奈川県本部
不要な運動靴回収に協力

『格差拡大で多くの人たちの不安感と不信感が増す中で、
日本リザルツの皆様方の地道なご努力が一層大きく結実しますことを心から祈っています。』

理事長は私たちの活動をよく理解してくださっていると感動しました。

**2018 年 06 月 15 日**

## カンゲミヘルスセンターの新結核検査所の完成に向けて

日本リザルツは、2016 年からコミュニティ主導の結核予防活動を支援しております。今回は、その活動の 1 つの新結核検査所の建設について紹介させて頂きます。
写真は、本年の 5 月末に撮影した新結核検査所の外観です。
まだ完成しておりませんが、建物の外観の主な様子がわかると思います。

以前、ケニアの建物は、レンガを積み上げて出来た模様が 1 つの特徴だと聞きました。この建物は、2 階建てとなっており、カンゲミヘルスセンターの現結核検査所では難しい、幅広いスペースを用いた検査、書類作業、その他必要業務が可能になります。

皆さまは、建設作業にどれほどお詳しいでしょうか。自分は、こちらの結核検査所の建設に携わるまで建築から遠い人間でした。上に見えます写真は、建設現場の方々がプラスタリングと呼ばれる内装とハッキングと呼ばれる地固めの行程作業を行っている様子です。

今回の新結核検査所の建設において、多くのケニア人が毎日の作業に集中しておられます。現在、ケニアの気温は下降傾向にあります。それでも、建物の素早い完成に向けて、作業員達は頑張っておられます。右の写真は、日本リザルツ代表の白須がケニアを訪れ、建設状況の確認をしている際に作業員達と撮影したものです。

皆さま、カンゲミヘルスセンターの新結核検査所の完成模様とそこで行われる新たな結核検査活動の様子を届けますので、ご期待ください。

## スラムの結核患者

カンゲミ診療所に結核の薬を取りにきたグレイス（仮名）。昨年 12 月から DOTS という結核治療を受けています。DOTS とは、directly observed treatment short-course の略で日本語にすると、直接服薬確認治療や、直接監視下短期化学療法と呼ばれ、薬の処方だけでなくちゃんと服用するところまで目の前で確認する方法です。結核菌を最後まで叩ききるために、半年にわたり定期的に病院に通い治療を継続しなければなりません。グレイスは、治療の初めから処方された薬をきちんと飲んでいて、診療所へも毎週決まった曜日に欠かさずやってきて治療を続けています。もうまもなく辛い結核治療も終了です。そんなグレイスに聞き取りをしたリザルツスタッフの記録をみると「住所：ボトムライン（どん底）」となっています。

不思議に思って確認したところ、「トップがナイロビの事務所としたらカンゲミはボトム。グレイスの家はボトムラインという場所にあるのよ」という答えが返ってきました。
リザルツのケニア事業1期目で実施したアンケート及び個別調査の結果、カンゲミ地区において　結核・治療の課題が貧困と深く結びついていることがわかっています。

結核患者であるグレイスには　13 歳、8 歳、2 歳の 3 人の子どもがいます。診療所に来たグレイスに聞き取り調査をしたリザルツスタッフはグレイスの子どもたち全員の結核検査を提案しました。近々子どもたち全員に対してカンゲミ診療所で喀痰検査が行われます。
万一陽性の場合でも、すぐに治療を始められるからです。

カンゲミ地区

また、グレイスの夫は先月他界していて日々生活が厳しくなっているようです。
結核治療を受けながら近所で家政婦をし、僅かなお金で暮らしています。
結核が完治してもグレイス一家は貧困という病と闘っていかなければなりません。

課題が山積しているカンゲミでの事業は、医療体制だけでなく、住民の生活全体の改善など色々な側面に目を配りコミュニティが持っているリソースの活用、同じ思いで改善に取り組むコミュニティを基盤とした団体とのネットワークを構築しながら進めていくことが持続可能な活動になっていくのかもしれないと、ふと思いました。

2018 年 06 月 16 日

## ポリオアドボカシー（その2）

6 月 14 日、参議院議員会館 B104 号室で、「世界の子どもたちのためにポリオ根絶を目指す議員連盟第 17 回総会」が開催され、議連の先生、関係省庁、東京大学の渋谷教授、NGO の方々など 40 名を超える方々が参加されました。日本リザルツからも白須代表含め 2 名が参加しました。
会議では、WHO、UNICEF、GPEI、Gavi から、世界のポリオに関する現状と緊急対応の必要性が訴えられました。尚、ポリオの現状についてはポリオアドボカシー（その１）をご覧ください。
それを受けて参加された議連の先生方との活発な意見交換が行われました。
特に、UNICEF さんからは、２０１６年にナイジェリアで発生したポリオに対して日本政府が資金提供し、適切な対策が行われたことにより、それ以降は一件も症例が出ていないとのご説明がなされ、日本政府の支援に対する謝意が表明されました。

議連の先生方、関係省庁の皆様に世界のポリオの現状と緊急対策の必要性が的確に伝わり、新たな対策に繋がることで、一日も早くポリオの根絶を迎えることができればと願っています。

## カンゲミ結核検査所　建設現場

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。
今週は、外壁・内壁の左官工事（プラスタリング）仕上げ作業をしています。

来週末には外壁塗装が行えるよう、休日も休みなしで作業を行ってくれています。安全作業で頑張ります。

2018 年 06 月 18 日

## g-tax 講演会「多国籍企業とグローバル・タックス」

６月１７日に、横浜市立大学の金子文夫名誉教授による g-tax 講演会「多国籍企業とグローバル・タックス」を聴きに行きました。講演は国際連帯税の歴史から始まり、技術革新による第一次から第四次産業革命、そして第四次産業革命により起こった IT 系多国籍企業の台頭という流れで進められました。それらの IT 系多国籍企業は新しい分野を扱うことから市場において支配的になっており、また純利益よりも時価総額において突出している点が特色ということでした。彼らはタックスヘイブンに利益を移転するなどして租税を回避し、また各国に恒久的施設を持たないことからも税制上有利になっているということも話していただきました。このように国毎に異なる税制を積極的に利用して課税額を抑える「アグレッシブ・タックス・プランニング」は、現時点では違法とはいえないものの、税の本質から逸脱しているということから問題視され、それにより生じている「税源浸食と利益移転（BEPS: Base Erosion and Profit Shifting ）」と取り組むために経済協力開発機構（OECD）では BEPS プロジェクトを立ち上げ、国際的に整合性の取れた透明性の高い税制を目指しているという内容でした。
非常に濃い内容で、ところどころ飛ばしながらでも時間が足らない程でした。

2018 年 06 月 20 日

## ケニアの結核根絶を願って　～カンゲミでの LAMP 法研修～

日本リザルツのケニア結核抑止プロジェクトも 2 期目の中盤を迎えました。
結核検査所の建設も仕上げ段階となり、現場の作業員の仕事のスピードも上がっています。
今週はこの結核検査所に設置予定の結核診断器 LAMP 法をカンゲミ診療所スタッフが操作、管理、メンテナンスを行えるように、検査技師、医療スタッフを中心に実践的な研修を行いました。研修は結核診断器を開発した栄研化学の専門家渡辺さんと金本さん、ドイツの医療機器代理店ヒューマン（代理店）の担当者アンドレさん、三人の講師の下に理論をわかりやすく説明いただいた後、実際に診断キットを使って実習が行われました。

実習を受けたカンゲミ診療所のスタッフは、何度も演習を重ねるうちに結核診断器の操作を習得して検査結果の判定までできるようになりました。
この研修を通して、結核診断器の導入に対する診療所スタッフの期待と熱意が伝わってきました。
カンゲミから一日も早く結核がなくなる日が訪れることを願いながら 3 日にわたる研修を終えました。

## 日本の技術を世界に！

日本リザルツはケニアのスラム街カンゲミ地区で、結核抑止プロジェクトを 2016 年 7 月より実施しています。現在、2 年目のプロジェクトを行っているところです。今週は代表の白須もケニアに赴き、栄研化学様のご協力のもと結核診断方法の LAMP 法に関するトレーニングと、アドボカシー活動を実施してきます。
さて、LAMP 法って何？というそこのあなた！ 今日は LAMP 法についてご紹介させていただきます。

LAMP 法とは？
従来、結核の検査には、複雑な機器を使用せねばならず、診断結果の精度も低く、また結果が出るまでに長い時間が必要でした。その状況を打ち破ったのが LAMP 法です。特長は、使い方が簡単で、コストも低く、短時間で高精度の検査結果が出ることです。LAMP 法は、2016 年には WHO の推奨を得たほか、結核菌のみならず、マラリア、インフルエンザウイルス、腸管出血性大腸菌、マイコプラズマといった様々な病原体に対しても迅速診断法が開発されるなどの、広がりを見せています。

今回は、栄研化学様がカンゲミヘルスセンターの技師に直接、検査の方法を指導してくださいます。
「LAMP 法」をカンゲミのスラム街で導入することがきっかけとなって、ケニア、アフリカ、そして世界中に日本の優れた技術が広がることを期待しています。

2018 年 06 月 21 日

## カンゲミ結核検査所　建設工事

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。

現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。

来週より塗装工事が始まります。

内装工事では、洗面台・検査テーブル・棚などの材料が入り、完成に向けて工事を進めています。

## TB LAMP TRAINING FINALLY HAPPENS

The long-awaited TB Lamp machine was finally in Kangemi. There were mixed reactions as some medical personnel had thought that the machine was a very big one, yet; actually, it was not all that big.

As the training proceeded, it was clear that when compared with the other machine, specifically GeneXpert, the process was far less cumbersome.

Further, it was determined that instead of analyzing samples one by one, the LAMP machine could handle several samples at a go. This indeed can be a great deal since the testing of many people can be done all at once. The fact that it takes a shorter time to diagnose makes it even more ideal since patients would not be waiting for a long time to get the results as was the case previously.

With the focus now narrowing in on the TB Lamp machine, and how it is used, we would appreciate the fact that it will make the diagnosis better, and we will have results churned out faster, and treatment much more rapid.

We look forward to a more successful rest of project year.

2018 年 06 月 22 日

## ワールドカップ

先日は日本が強敵に勝利した事もあり日本中がワールドカップで盛り上がっているようですが、私も我が家の高齢猫のせいで連日深夜におこされ、おかげで好ゲームを楽しんでおります。日本が勝った日は、その嬉しさが 2、3 日続き、満員電車もさほど苦にならず日々の仕事の疲れも忘れるくらいでした。

スポーツが私たちの健康に良いことは皆認めているところですが、スポーツ観戦も又、精神の健康に良い影響を与えている、といわれています。例えば自分が応援しているチーム等が勝利した時に脳内にあるドーパミンというホルモンが発生し充実感、満足感をもたらし、スポーツから得た純粋な感動が私達に元気を与え、ストレス解消にも効果的だそうです。

ワールドカップはまだまだ続きますが、眠気をさます様な日本チームの活躍を大いに期待したいと思います。

## 革新的変化を求めて

皆さんは、人生の課題に対してどのような革新的変化を求め、取り組まれていますでしょうか。
現在、日本リザルツは、栄研化学が発明した LAMP 法という結核診断法をケニアに取り入れ、結核患者の早期発見に役立てるための活動を行っています。

2018 年 6 月 18 日から 20 日にかけて、栄研化学とヒューマンの職員達を講師に招き、カンゲミヘルスセンターで当センターの技師やクリニシャン達に研修会を開きました。

こちらの写真は、カンゲミヘルスセンターの技師・アンダーソンさんとヒューマンのトレーナー・アンドレさんがランプを用いた結核検査に取り組まれている様子です。以前、アンダーソンさんは結核検査所の若手のホープだと聞きました。結核検査技師として、彼の更なる成長が楽しみです。

こちらの写真は、カンゲミヘルスセンターのクリニシャン・サラさんが結核検査に取り組まれている様子です。彼女は、結核検査の技師ではありませんが、3 日の研修でLAMP 法について深く学ばれていました。彼女のように、クリニシャンもLAMP 法について学ばれることは、ヘルスセンター全体で新たな技術を活用していくために大切だと感じました。

こちらの写真は、栄研化学のトレーナー・金本さんが LAMP 法の技術指導を行っている様子です。日本と異なる環境でランプの技術指導にあたり、金本さんや他のトレーナーの入念な準備に感心しました。
3 日間のランプの研修会で、参加者達の多くの驚きと熱意を感じました。講習会の最後に、参加者のケニア人達にランプの導入と活用に対する思いを聞きました。すると、多くの結核患者を抱えるカンゲミヘルスセンターにおいて、LAMP 法はとても役立つだろうという声を受け取りました。また、カンゲミからケニアの様々な場所にLAMP 法を普及するために、日本リザルツの役割と努力が重要だという声をいただきました。これからも、多くの方々と共に歩み、LAMP 法が必要な方々の手助けになるように努力をしていきます。

**2018 年 06 月 24 日**

## 第139回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会について

6 月 22 日の 15 時から 17 時、財務省中央合同庁舎第 4 会議室で、第 139 回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会が行われました。外務省、厚労省、17 の NGO から総計 30 名が参加しました。今回の議題は、1）世界保健総会報告、2）G7/G20 の保健関連報告、3）アルマ・アタ 40 周年関連、4）マラリア関連、5）結核関連、6)グローバルファンド関連、7）UHC2030 ステアリング・コミッティ報告、8）世界栄養報告 2017 版概要報告・GGG+の情報共有、9）エボラについて、10）KEY ASKS キャンペーン写真撮影というように、多岐にわたるテーマが扱われました。

中でも 9 月の国連結核ハイレベル会合に関しては、4 月の世界結核議連会合、6 月の国連結核ハイレベル会合 CSO ヒアリングの情報共有などの動きについて情報共有、意見交換がなされました。9 月の国連結核ハイレベル会合が近づく中で、市民社会からの要望も改めて確認されるなど活発な会議となりました。また、同会合に関して、我が国からも総理の出席を期待するとの声がありました。また、G20 については、市民社会からの意見の反映が重要であることが訴えられました。また、国連結核ハイレベル会合も含め、国際会議における NGO としての広報活動の重要性が強調されました。最後に、2018 年 5 月にアフリカのコンゴ民主共和国赤

道州で発生したエボラ出血熱について NGO から詳細な報告がありましたが、外務省から WHO 等国連機関を通じて 300 万ドルの緊急無償資金協力が実施予定であるなど我が国の迅速な対応が報告されました。いずれにしても、外務省、厚労省の担当官と NGO の関係者との大変熱心な意見交換となりました。
日本リザルツからは、2017 年版世界栄養報告の日本語版を作成し、ホームページで閲覧可能とすべく準備中であること、2017 年報告は、栄養改善と SDGs との関連性が強まったことを報告しました。高齢者を含めた健康問題、非感染性疾患（NCDs）問題への対応が、2020 年の栄養サミットを踏まえて重要な課題であるとの発言が外務省からもあり、気持ちを新たにしました。本会合に先立つ NGO の事前会合でも、栄養改善に関係する問題意識を有する NGO もあることが分かり、引き続き NGO の方々との情報交換が重要であると思いました。

**2018 年 06 月 26 日**

## 運動靴輸送に向けて

本日、エチオピア航空を訪問し、イエルガ・アシェナフィ日本支社長と運動靴輸送に向けたお打ち合わせを行って参りました。
エチオピア航空は運動靴輸送プロジェクトの最大の応援団で、前回の大量輸送の際（2017 年 6 月）は、2 トンの運動靴を自国ではないケニアにわざわざ輸送してくださいました。

右がアシェナフィ支社長です。

今回もケニアに 2 トンの運動靴を送るべく、輸送日程などの調整を実施しました。
1 日も早く運動靴を子どもたちに届けられるよう、頑張ります。

## 結核患者に寄り添うために　～ケニアのスラム居住区での取り組み～

マギーは日本リザルツケニア事務所のスタッフです。
看護師としての知識と経験を活かして、カンゲミ診療所を訪れる結核患者の支援活動をしています。
また診療所での支援だけでなく、結核治療薬をきちんと飲んでいるか、何か困っていることはないか、家族に感染していないかなど、患者の住んでいる地域の住民ボランティアと協力して患者を見守るのもマギーの大事な仕事です。

この日、住民ボランティアと一緒に気になる患者の家庭訪問に行くというので、診療所のあるカンゲミセントラル地区からキバガレ地区までついていくことにしました。
車やオートバイで混雑するバスセンターを抜け、橋を渡り、幹線道路から斜めに伸びる道をまっすぐ歩いていくとトタン屋根のバラック住宅が見えてきました。小さな丘の斜面を利用して立っている簡素なバラック群。軒先をやっと抜けられるほどの幅の路地をどんどん降りていった先に患者の家はありました。30～40 代と思われる男性患者で土間に直接敷かれた薄いマットレスの上に寝ていました。投薬治療を中断した患者でかなり

衰弱しているようでした。一人暮らしで寝たり起きたりの患者を支えているのは近所に住む若いお母さんでした。子供が 3 人いて忙しいから看病できないわ、と言いながら患者に水を汲んできてくれました。
DOTS という結核治療は薬の処方だけでなくちゃんと服用するところまで目の前で確認する方法で、結核菌を叩き切るまでに大量の薬を半年にわたって飲み続けなければなりません。この患者のように途中で治療をやめてしまう患者も少なくありません。ですから、マギーのように地域住民の患者に寄り添って治療の過程を見守る取り組みの持つ意味は大きなものがあると思います。
貧困にあえぐスラム居住区の住民に相互扶助の精神を語るのはなかなか難しいですが、患者に寄り添う仕組みとそれを支えている住民の方たちを間近に見て心強い気持ちになりました。

**2018 年 06 月 27 日**

## 7 月 26 日「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」開催について

標記「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」を開催する運びとなりました。
国際連帯税は 2006 年 2 月パリに集った多くの政府代表によって旗揚げされました。わが国においても 2008 年 2 月の「国際連帯税創設を求める議員連盟」の結成、外務省による 9 年連続の「国際連帯税（国際貢献税）」新設の要望等、取り組みがなされてきました。
途上国の貧困や感染症対策のための開発資金は圧倒的に足りません。2015 年 9 月に採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に必要とされる資金も、毎年数百兆円と試算されています。この膨大な資金の新たな調達の仕組みとしても、国際連帯税は期待されています。
そのような中、本年 5 月、アルゼンチン・ブエノスアイレスにおいて開催された G20 外相会合において河野外務大臣が「SDGs 達成に必要な資金確保への国際連帯税の活用」について提案を行うなど、国際連帯税実現に向けての機運が高まってきています。
今回のシンポジウムでは、金子文夫横浜市立大学名誉教授をお招きして基調報告を行っていただき、津田久美子北海道大学特別研究員(DC1)をお招きして金融取引税など欧州の最新情勢報告を行っていただきます。
また、河野外務大臣にもご出席及びご発言いただき、来年の G20、TICAD 7、国連ハイレベル政治フォーラムなど、国際的なイベントが続く時期に向け、国際連帯税創設へ向けてモメンタムを増大させる契機としたいと考えております。
皆様の積極的なご参加をお待ちしております。また、ご関心のありそうなお知り合いの方々にも、ぜひご共有いただけますと幸いです。

「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」
　※参加費無料

日時：2018 年 7 月 26 日（木）13：30～16：30(13：00 開場)
　※ロビーにて入館証をお渡しします。
<プログラム>
第 1 部：共催・協力者あいさつと基調講演

第 2 部：各界からの支援・コメント
第 3 部：宣言文採択
（シンポジウム終了後に懇親会を予定しております。18 時 30 分まで）
会場：衆議院第一議員会館　国際会議室　定員：200 名（予定）
＊定員に達し次第、締め切りとさせていただきます

2018 年 06 月 29 日

## PATIENT BOOKLET TO REFLECT STATUS OF TB PATIENTS IN KANGEMI

In many aspects, knowing the true status of patients is hard. One has to meet them and interview them to get the perspectives. It is not often easy, since most of them are faced with stigma, and fear giving out any information. Indeed, in previous times, it was a very big source of stigma when someone says you have a disease like TB or HIV.

But through assured treatment of their information confidentially, they agreed to share with us some information as regards their TB status.

This information shall be analyzed to make further clearer decisions about the situation of TB in Kangemi.

Together with Ms. Chako, we have been collecting the data and compiling it to make it into a TB Booklet.

In the booklet, we shall have case narrations as a gateway to understanding the challenges of eradicating TB in the area, and possibly, what can be done.

We would wish to make it as informative as possible to make sure it is influential enough is making pertinent decisions in the Kangemi TB project.

We hope to have it complete in the next few days.

## 国際食糧政策研究所と栄養議連等の先生方との意見交換会について

29 日午後、1975 年以来、開発途上国の農業問題に関する経済学的研究を行っている IFPRI（International Food Policy Research Institute：国際食糧政策研究所）の所長等による逢沢先生及び三原先生への表敬訪問が行われました。IFPRI からは Fan 所長、神戸大学大学院の大塚教授始め 5 名、その他では公益財団法人味の素ファンデーション栗脇氏、日本リザルツなど総勢 9 人が訪問しました。

会議では、アフリカの農業と栄養の問題について幅広い意見交換が行われました。アフリカの食料需給は輸入依存状況にあること、こどもの栄養不良問題が深刻な状況にあることも話され、今後の対応のありかたについても熱心な議論が行われました。アフリカの栄養問題に関して、逢沢先生から、栄養問題が深刻化するアフリカでは、スピルリナというアフリカの自然に存在する栄養価の高い藻類の活用も重要であり、その活用等に関して IFPRI の協力を期待しているとのご意見もありました。今こそ栄養問題の目標達成のための具体的な手段が重要になっていることを痛感しました。2020 年の日本での栄養サミットについて、議員の先生方と IFPRI との間で情報共有されたことも重要です。

また、IFPRI の 2017 年の世界栄養報告（Global Nutrition Report: GNR）の日本語版を日本リザルツが策定したことをご報告するとともに、味の素ファンデーションによるベトナムでの栄養士育成等の取り組みなども披露されました。グローバルな栄養問題に関して最新の動向を先生方にご報告でき、大変意義深い会議となりました。

なお、GNR に関しては、IFPRI の所長から、本年 11 月 29 日にタイのバンコクで開催される 2018 年版 GNR の公表等に関する国際会議があり、日本リザルツも招待されました。更に、2019 年版の作成に関して、日本側の執筆の依頼と日本リザルツへの協力が依頼されました。

本日の会議を踏まえて、栄養問題について戦略的な取り組みをより一層推進する必要があります。

**2018 年 06 月 30 日**

## JANIC 総会

昨日JANIC （国際協力NGOセンター)の年次総会に出席してきました。

午後3時に始まり6時30分ごろまで出席者と事務局との間で熱心な質疑応答が取り交わされました。冒頭、谷山理事長からタイで開かれた東アジア民主主義フォーラム参加報告があり、韓国、タイ等で強権的な政治によるメディア規制による社会の分断化が懸念されていること、又、近年益々世界で自国主義が起こっていること、それに対しNGOが地球市民としてどの様にその使命を果たしていくべきか問われる等のお話がありました。

ただし現状では多くのNGOで厳しい財政状態、人材不足という問題を抱え運営が大変であることを改めて認識しました。特に現在の日本は有効求人倍率が東京で 2.15 もあり、働く側に有利な為、特に若者に認められない限りNGOで働く人達がいなくなる。との指摘がありました。実際に国際協力団体のインターンが減っているとの報告もありました。

こうした現状を踏まえてJANICではフレックスタイム制、テレワーク等による業務の効率化を図り、シェアオフィスの導入によるNGO間での情報共有・学習等を行って「ワーキンググループ制度」を整備、拡充されるそうです。

また、今回は定款の内「正会員の要件を変更」に関して特に活発な議論が取り交わされました。これまでの要件である「非営利団体」としてあるのを「主たる活動を公益に資するもの」と改める事によって株式会社等の参加を認めるとした点に質問が集中しました。

JANICとしては異なるセクターと協力していくことにより人材、資金が集まるとの希望があり、又、反対意見としては企業と非営利セクター、すなわち営利事業と公益事業という二つの相容れないものが共同で仕事するのは必ず矛盾を生ずるというものでした。最終的に多数決により変更が認められましたが、会場の出席者から反対も多かったようです。
今回の総会出席でJANICの谷山理事長、若林事務局長、正会員委員会の鬼丸氏、出席された会員の方々の熱心な質疑応答を伺ってNGOの現状、課題、将来への展望等を改めて認識し勉強させて頂きました。
総会出席後、近くの母校を久しぶりに尋ねました。
オンボロだった校舎は素晴らしいビルに変わっていました。

## ケニアでランプ法の普及活動に向けて

先日、結核・ハンセン病・肺疾患の事業に従事するケニア保健省の方々を交え、栄研化学が開発した新結核検査のランプ法について話し合いを行いました。

会合は、ケニア保健省の方々によるケニアにおける結核の現状や結核検査方法の説明で始まり、栄研化学でランプ法の開発に貢献された方によるランプ法の使い方や特徴の説明へと展開していきました。ケニア保健省の方々は、ランプの使用方法の説明を受けている時、興味深い目で見られておりました。

会合の中で、ケニア保健省の方々にランプ法使用のデモンストレーションを体験して頂きました。彼らがランプ法の使用説明を受けたのは 1 時間ほどでしたが、その使用手順をすぐに覚え、説明ができるようになりました。その速さに、彼らの結核検査に対する知識の深さが垣間見えました。

これから、ケニアで日本リザルツの事業を通してランプ法の普及活動を進めるにあたり、コミュニティで結核に苦しむ方々をサポートできる形や方法を考え、ケニアのコミュニティに生きる人による結核予防活動を促進できるように頑張っていきます。